

## 報告事項 1

# (公財) コープともしびボランティア振興財団

## 2018 年度事業計画

### <基本方針>

協同の基盤づくりを通し、中間支援組織として社会的課題解決への役割を果たします。

### <課題>

1. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援します。
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます。
3. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります。

### I. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援します。

#### 1. ボランティア活動助成

##### (1) 募集および申請状況

募集に関する広報は、当財団ホームページ、コープこうべホームページ、機関紙「きょうどう」で行いました。また、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、下記のと通りの申請状況です。

県内9会場で開催した助成金説明会では、当財団の成り立ちや、助成の目的、特徴を理解いただいた上での申請をお願いしています。また説明会の後半に参加グループ同士の紹介・交流の時間を設け、ネットワークづくりの場としています。

	申請 (グループ数 / 金額 (円))	助成(案) (グループ数 / 金額 (円))
福祉等	175 / 15,084,600	139 / 7,481,000
環境	26 / 2,618,000	20 / 1,759,000
合計	201 / 17,702,000	159 / 9,240,000

##### (2) 審査について

###### ①審査基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の審査基準を記載し、公開しています。

◇活動の公益性：課題把握、公益性

◇社会貢献度：活動の必要性、課題と活動との一致、地域密着度

- ◇活動の継続や発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力
- ◇収支の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力
- ◇循環型のしくみへの理解

## ②審査方法

草の根の活動支援を目的とした「ともしび枠」については、今年度も継続しています。対象は、当財団からの助成が10回以上かつ申請金額が3万円以下のグループです。

また、今年度から少額助成として「きらり助成」（下記参照）を設けました。「きらり助成」を新設したことにより、「ともしび枠」の募集は、2018年度から廃止します。

## (3) 今年度の特徴

### ①「きらり助成」の新設

この助成は、上限15000円の少額助成で、申請書が一般枠に比べて枚数が少なく書きやすいこと、交通費や個人へのプレゼント代など、一般枠では対象外となる経費も申請できることが特徴です。「少額でも、より使いやすい助成金が欲しい」というグループのニーズに合致し、1年目は既存・新規合わせて、37グループがこの枠に申請しました。

### ②申請グループの増加

全体として、申請グループ数は2015年度から4年連続で増加し、今年度はこれまでで最大の70の新規グループが申請しました。分野別でみると、環境分野は高齢化などにより申請を中止したグループが多かったため申請数が減少していますが、福祉分野は申請数が大きく増加しました。全体として申請グループ数は、昨年度から18グループ増えています。

	申請件数				
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
福祉	144	155	152	146	175 (35)
環境	30	28	36	37	26 (2)
合計	174	183	188	183	201 (37)

※ ( ) 内はきらり助成数

	上記のうち、新規申請件数				
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
福祉	21	23	30	42	65
環境	4	3	9	7	5
合計	25	36	39	49	70

#### (4) 2018年度助成

##### 分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成給付率(%)
①	福祉	高齢者	49	1,766,000	19.1
		障がい者	26	1,579,000	17.1
		地域住民	11	542,000	5.9
		在日外国人	1	100,000	1.1
		施設・病院	1	10,000	0.1
		その他(がん患者)	1	15,000	0.2
		合計	89	4,012,000	43.5
②	まちづくり		6	483,000	5.2
③	文化・芸術		0	0	0.0
④	国際協力		1	149,000	1.6
⑤	男女共同参画		1	176,000	1.9
⑥	子ども育成		41	2,588,000	28.0
⑦	環境の保全		20	1,759,000	19.0
⑧	その他(ワトバンク)		1	73,000	0.8
合 計			159	9,240,000	100.0

#### (5) 助成決定後のサポート

##### ①財団スタッフによる訪問やヒアリング

可能な限り、助成グループを訪問し、助成グループのとらえている地域課題を共有化したり、困りごとの相談に応じます。

##### ②ともしび通信や情報の提供

年4回発行の「ともしび通信」とともに、他の助成金情報、研修会の案内など、助成グループの皆さんに役立つ情報を送付していきます。

##### ③交流会の開催

5月16日に全助成グループが集う「市民活動交流会 2018」を開催し、情報交換や、地域課題の共有化を行います。また、希望により分野別交流・研修会を開催し、ネットワークづくりやステップアップの機会とします

##### ④ホームページでの助成グループ情報強化

2016年度から、全ての助成グループ情報をホームページに掲載しています。2018年度もグループからイベントやメンバー募集などの情報を集め、同財団のホームページなどにタイムリーに掲載し、グループの広報をサポートします。

## 2. 社会人の学びと研究助成

### (1) 2018年度助成への申請状況

「活動現場をすでに持っている社会人が、学びを深め、地域に還元するための助成」として、募集を再開したところ、8件の応募がありました。

## (2) 助成(案)

お名前	在籍する大学院	研究内容
末永 美紀子	放送大学大学院文化科学研究科 生活科学プログラム専攻	看護師資格をもち、2004年に医療的ケア児・障がい児と健常児の統合保育に取り組む認可外保育施設「ちっちゃな保育所」を開設、2015年、神戸市小規模保育施設「ちっちゃなこども園ふたば」「よつば」、障害児通所支援事業「て・あーて」開設。「小規模保育事業における園外保育のリスクマネジメント」が研究テーマ。

## (3) 2017年度助成対象者による報告会の開催

2017年度の助成対象者である、久保 宏紀さんと、井原 一久さんに、2018年7月24日に公開報告会を開催します。

## 3. 社会的課題解決にチャレンジする団体への申請募集と選考

### (1) 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」助成2年目

地元企業7社から寄付金 総額100万円をいただき、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2017年度に2件の助成を実施しました。

2018年度は兵庫県外も含め、新たに企業6社の賛同を得て、総額160万円の予算で助成を行います。

社会的課題を解決するために活動しているグループを対象とし、4月から募集を開始します。申請書による1次選考ののち、7月3日に公開プレゼンテーションによる2次選考を行います。2次選考会には、財団の運営委員や、外部識者、賛同企業の職員などに参加いただき、選考委員の皆さんで助成グループを選出・決定いただきます。

このプロジェクトで助成するグループは法人格を問わないものとし、社会的課題解決にチャレンジするグループに門戸を広げます。

●年間予算 160万円 上限 50万円/グループ

#### 4. 2019年度助成に向けて

##### (1) 2019年度の「ボランティア活動助成」 説明会の実施と選考

2019年度助成に向け、申請に先立ち、下記9会場で説明会を行います。参加者の多い、神戸市中央区で2会場設定し、より参加しやすくします。

日時	開催エリア	会場
10/30(火)	篠山市	篠山市民センター 多目的ルーム①
11/1(木)	姫路市	姫路じばさんビル 601会議室
11/3(土)	神戸市 東灘区	コープこうべ 住吉事務所 7階会議室
11/8(木)	宝塚市	宝塚商工会議所 多目的ホール
11/9(金)	神戸市 中央区	ひょうごボランティアプラザ セミナー室
11/12(月)	三木市	協同学苑 研修室A
11/14(水)	西宮市	西宮市民会館 401会議室
11/20(火)	神戸市 中央区	神戸市総合福祉センター 第5会議室
11/27(火)	明石市	明石市生涯学習センター 学習室801

##### (2) 2019年度の「社会人の学びと研究助成」 募集と選考

2018年度も「社会人の学びと研究助成」の応募と選考を行います。  
7月から募集を開始し、2019年1月末に締切り後、2月に書類による1次選考を経て、2次選考(面接)した上で、助成案を作成します。

#### 5. ひと育て、学びの場の充実

##### (1) ボランティアや地域課題の学びの場を支援

下記の4つの柱を基にした講座を開催するグループや団体を後援・協力します。

- ①ボランティア活動の裾野を広げる講座
- ②グループマネージメントを強化する講座
- ③ボランティアグループの技術向上と継承をサポートする講座
- ④社会的課題を考える講座

##### (2) 新しい課題について啓発する講座を開催

外部有識者を講師に、社会情勢やくらしの課題、市民活動のこれからの動きなどについて、公開で学習会を行い、財団のビジョンにも反映していきます。

#### II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます。

##### 1. 助成グループの活動を積極的に広報し、共感を広げる

- ①ツムギスト(広報ボランティア)の養成と活動を継続  
グループを実際に訪問し、活動の状況や、活動によって地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、“物語”を紡ぐボランティア(「ツムギスト」)を

今年度も養成します。ツムギストによる”物語“は財団のホームページやSNSで発信します。1人のツムギストが仲間とともに再訪することも歓迎します。

- ②助成グループの代表者を講師にした学習会の開催や広報ツールへの掲載  
レインボースクールや地域の学習会で、財団について説明する際に、助成グループの代表者にも講師になっていただき、普段の活動について話してもらうことで、活動への共感者を広げます。

## 2. 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」関連イベントの開催

### ①賛同企業とのコラボイベント開催

賛同企業とのコラボ企画として、地域の人が参加しやすいイベントを開催することで、これまで財団に関心のなかった層へ財団への関心を掘り起こします。

また、賛同企業のとらえている社会的課題と、それらに対する貢献活動も広報することで、同プロジェクト全体への共感者を増やします。

2018年度は、「伊藤ハム株式会社」と再度山での「森林整備」、「ナリス化粧品株式会社」と「認知症予防と美容」をテーマにコラボイベントを予定しています。

## 3. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

- ①コープこうべ職員教育プログラムを活用し、財団の取り組みへのコープこうべ職員の参加を促進します。

- ②地区活動本部に積極的に情報提供し、地域のグループや行政などに財団の助成制度について、紹介いただけるようにします。

- ③広報室と連携し、計画的でタイムリーなマスコミリリースを行います。また、宅配や店舗などの事業媒体でも掲載いただけるよう、働きかけます。

- ④財団サポーター（現在50名）の登録を増やし、広報活動への参加・協力を呼びかけます。

## Ⅲ. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります。

財団に助成を求める新規グループは数、金額ともに年々ふえており、今後ますます資金調達の必要性が高まっています。

### 1. 資金調達の強化

#### (1) 2018年度 賛助会費・寄付・募金の目標

#### (2) 新規法人賛助会員の募集の強化

「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」では、13企業から総額160万円の寄付を得ています。一方で、「審査など、プロジェクト運営には参加できないが、財団の活動は応援したい」という声もあります。そのため、2018年度はコープ協力会などで、新規の法人賛助会員への呼びかけを行います。

#### (3) 「古本募金 きしゃぼん」のさらなる拡大

2016年7月にスタートした「古本募金 きしゃぼん」は財団らしい取組として、徐々に参加者が増え、昨年は半年で20万円の募金額でしたが、今年度は1年間で72万を上回る募金に成長しました。(2018年度3月末実績 723,841円)。

古本回収ボックスを設置する事業所はコープの店舗等21か所に増え、コープ委員会やサークルによる地域のイベントとして取り組んでもらえるようになってきました。2018年度は、広報ツールを企画・制作し、さらに盛り上げていきます。

#### **(4) 先進事例の学習と検討**

外部団体などによる資金調達の成功例について、ホームページやセミナー、訪問などにより、研究を進め、当財団でも可能なものについて検討します。

#### **(5) 基本財産の運用**

運用規則にのっとって適性に運用していきます。

## **2. 財団の基盤、人材育成の強化**

### **(1) 財団の中期ビジョンの策定**

協同の基盤づくりを通し、中間支援組織として、社会的課題解決への役割を果たすため、財団の歩みとミッションを再確認し、中期ビジョンを策定します。

今後の財団としてのあり方や、助成事業などについて、一定の方向性を示すものとします。

### **(2) 財団スタッフの人材育成**

財団のスタッフとして、ボランティアコーディネータ、ファンドレイズ力が常に求められています。内外の研修へ積極的に参加することで、スキルアップを図るとともに、外部団体との交流の機会を増やし、ネットワークづくりを促進します。